

家庭と心をつなぐ保護者対応はどうすればいいか

「どうなっているんや!」「うちの子を見てくれない!」「先生、冷たいな!」
「子どもは先生が好きと言ってるから我慢するわ」「この先生は、エエかもしれない」
「しゃあないな、先生も大変やからな」「先生、困ったことあったら言いや、助けたる」

1. 最近の保護者は大変! モンスターペアレントの出現

- ・無理難題の「イチャモン」保護者が増えている→日常の教育活動に支障が出ている。
- ・最近の学校事情・・・あまりの多忙さに→通知表の所見欄が空欄、パソコンの字が氾濫、家庭訪問の簡略化→でも、それがかえってモンスターペアレントに火をつける

2. そんな保護者の「エエ先生」の基準は、自分の子を見てくれているか

- ・先生からみたら「1対40」でも、子ども・保護者からみたら「1対1」
- ・親としては「我が子をしっかりみてほしい」 いつの時代もそれが親の心

3. そんな保護者の「エエ先生」の基準は、学校の様子を知らせてくれているか

- ・学校でどんなことしているか、親はやっぱり心配なもの
- ・連絡帳、電話、家庭訪問、学級通信、参観日、懇談会等で、具体をできるだけ伝える

4. 要するに、一番大事なのは、保護者との信頼関係

- ・小さな積み重ねが信頼を得る。手間がかかっても、ここを怠ると傷は広がっていく。
- ・実はイチャモンの親も悩んでいる。そんな親の気持ちもわかってやりたい。

5. 阪大教授 小野田正利著 「悲鳴をあげる学校」・・・イチャモンの解決法は

- ・親の「イチャモン」から「結びあい」へ 子どもでつながろう
- ・「結びあい」の「あい」は「合い」であり「会い」であり「愛」である（仲島）

6. もし、クレームが来たときは? その対処法は?

- ・まずは「よく聞く」そして「よく調べる」子ども同士のトラブルは事実の確認!
- ・そして「すぐに動く」(連絡帳×)(電話×)→家庭訪問。後手に回るとダメ!
- ・一人で抱え込まないこと。すぐに学年、教頭、校長に報告、連絡、相談する
- ・謝罪は必要だが、無理な要求には慎重に対処(例えば書面で示せ、弁護士を呼ぶ)

7. 保護者対応は大変。でも味方につけるとこんなに強い味方はいない

- ・勇気を出して5分間家庭訪問をしてみよう! 「その一歩」の実践が一番の力になる
(HOW TO 本で、勉強するより、一度でも家庭訪問に行く方が確実に力がつく)

※ 5月例会(5/17 書くことのすすめ) 6月例会は日程変更(6/14 生き生きランニング こんな声かけで子どもは変わる) 評判のプロコーチによる走の実技指導です。場所は大阪城公園 集合はJR森ノ宮駅 14:30 着替え持参(更衣室有り) 雨天も実施